



いよいよ中体連！先ずは地区大会

コロナがあけてどの競技もいよいよ制約無し！
スポーツを「する」「みる」「ささえる」

校長 濱 中 昌 志

「スポーツ」と聞いて、皆さんは何を思い浮かべるでしょうか？

陸上や水泳、野球にサッカー、テニスといった球技など、いわゆる体育の授業や部活動で経験したことがある競技種目を思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。

そもそも、スポーツという言葉の語源は、英語の「Sport」が19～20世紀にかけて一般化した言葉であり、その由来はラテン語の「deportare」（デポルターレ）とされています。

デポルターレとは、「運び去る、運搬する」という意味。転じて、精神的な次元の転換、「義務からの気分転換、元気の回復」仕事や家事といった「日々の生活から離れる」気晴らしや遊び、楽しみ、休養といった要素を指しています。つまり「スポーツ」という言葉が示す範囲は、本来とても広いもので、決して競技スポーツに限るものではありません。

そして、スポーツとの関わり方は「する」ことだけに留まらず、夢中で観戦し、応援すること、という方も多いでしょう。スポーツを「みる」「ささえる」という行為によって、自分との戦いに身を投じるアスリートの姿に心を震わせ、勇気をもらうこともできます。これらがスポーツの本質であり、人生を楽しく、健康的で生き生きとしたものにするために、勝利を追及するもよし、自分のペースで楽しむもよし、誰もが自由に身体を動かし、自由に観戦し、楽しめるものであるべきものです。

そんな「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むという全ての人の権利」が、新型コロナウイルス感染症の影響で、一昨年まで中止や制限を余儀なくされました。その影響を受け練習に励んできた本校の3年生がついに中体連の本番を迎えました。

新型コロナウイルスの感染症法上の分類が、季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられ、観戦のルールも緩和され、大声ありでの状態に戻りました。もちろん、応援歌の合唱や鳴り物の使用、観客同士のハイタッチなども可能です。

愛宕中学校の代表として中体連地区大会に参加した生徒は、それぞれの結果だけでなく、一人一人が確実に成長しました。

各部の活躍は、日ごろの保護者や指導者に対する感謝の気持ちが現れたプレーであり、チームメイトやクラスの仲間との絆、人と人の繋がりを改めて実感させるものでした。